廣﨑 誠治 議員

福岡ひびき信金宇野支店の廃店は

坪根町長 可能性を信じ存続の依頼をした

問　銀行が撤退する町を社会がどう評価するか見解を。地元商工会加入者並びに一般利用者は大変不便になると思うが、存続のため町はどういう方策をとったか。

坪根町長　銀行の支店廃店は企業の経営上の戦略であり、市町村の評価にまで及ぶとは考えていない。6年前に廃店は決定していたということを信金の本部役員に今年の3月に聞き、廃店にならないよう存続を商工会会長・議会議長と本店にお願いに行った。

問　残り時間は少ないと思うが自治会にお願いするなど、上毛町全体で署名活動し、監督官庁に陳情する方策は取れないか。再度地域のため努力していただきたい。

坪根町長　6月26日が最終決定期限と思っている。宇野支店預金の目標額に不足する額の、半分が集まらなくては土俵に上がれない状況である。町からはこれ以上何も言えないと思っている。

福岡ひびき信用金庫宇野支店

少年海外体験学習行先変更は

問　タイへの行先変更はいつ決定したのか。国際交流審議会では慣例で英語圏に行先を決めていたと思うが。

百留教育長　今年の2月10日、第1回審議会でタイへの派遣を決定した。過去24年間は英語が主とした国に派遣し、英語教育の充実を目指してきた。よちよちの英語を持って行って劣等感を持つこともあり得る。母国語が英語ではないが、第1外国語として我が国と同じ英語教育向上を目指すタイ王国を訪問し、英語力の違い、学ぶ意識の違いなどを感じて、英語学習国際感覚を育成する目的とタイは親日国でもあることから決定した。

問　子どもの感想文を見るとオーストラリアでホームステイを体験し、大変良かったと書いてある。今回は行うのか。

百留教育長　ホームステイ形式ではない。ホテルに宿泊し、学校交流、文化財視察、企業・国際機関訪問などを行う予定で、今までとは異なる計画とした。

大池公園開発計画基本構想は

問　基本計画概要版の説明を受けたがこの企画の発案は誰か、コンサルに委託したのか。

岡崎開発交流推進課長　職員のアイデア募集に始まり、町職員のプロジェクトチーム、作業部会の検討を経て専門家に委託し、基本構想が完成した。

問　概算事業費の説明を受けたが総工費は二十数億円を見込む大型事業となる。町の27年度一般会計予算の3分の2以上になるが町長はどう思うか。

坪根町長　金額的には詰めて行き、中身についても現在十分に協議している。今後の成り行きを見守っていただきたいと思う。

問　債務返済、維持管理費の積算及び費用対効果予測は行っているのか。

岡崎開発交流推進課長　本年度実施の基本計画の中で財源確保も含めて検討する。

問　上毛スマートICができ、活用するのは賛成できるが、この大型事業は住民に十分説明して理解してもらう必要がある。住民投票条例をつくり投票を行ってはどうか。

坪根町長　条例までつくる意志はない。住民の代表が議会の皆さんと思っているので、そこにしっかり説明してまいりたい。

茂呂 孝志 議員

公約にない大池公園整備は中止を

坪根町長 総合的な判断、人口増を目指す

問　この事業は町長の公約のどの部分にあたるのか。町長が公約に掲げている介護予防・高齢者在宅生活支援よりも、大池公園周辺整備事業を優先するようになった理由は。

坪根町長　明文化はしていないので公約にはないと答えたが、大池公園の開発のことはずっと言ってきた。公約の中には「東九州道開通に向けて、企業誘致、住環境の整備等に取り組む」と表記している。大池公園とは挙げていないが、私の中では公約のつもりだった。あえて言うと、見解の相違だ。

大池公園

問　この事業で、観光・雇用を創する具体的な取り組みは。

岡崎開発交流推進課長　上毛町の魅力を発信し、観光客誘致の入口として、直接雇用と農産物のブランド化による総合支援を考えている。

問　この事業を通じて、定住人口を増やすというが。

岡崎開発交流推進課長　このエリアの魅力が向上することで、町全体の魅力・発信力が高まり、「田舎暮らし研究村構想」などのコマーシャル効果で定住に結びつくと考えている。

問　この事業を通じて、福祉・教育・農業・医療・環境が、どのように連携して「九州一輝く町」を実現できるのか。

岡崎開発交流推進課長　福祉・教育については、情報提供、遊具などの整備により、上質な子育て支援ゾーンの形成が可能になる。農業は6次産業やブランド化の最前線となり、医療も第2次・3次医療圏の入口になる。

問　この事業に二十数億円もかける予算があるのなら、なぜ子育て支援などのために使わないのか。

坪根町長　総合的に判断した。大池公園整備で、将来は人口を増やしていく。

問　この事業による大池公園、大平楽への集客数の影響は。

岡崎開発交流推進課長　大池公園の集客数は、今後検討する予定。大平楽については、今回の計画では検討していないが、相乗効果の出る方法を考えていきたい。

問　この事業の総事業費と財源内訳・補助事業名は。

岡崎開発交流推進課長　財源などについても今後、合併特例債を含め様々な補助事業の可能性を検討していく。

国保税の引き下げ

問　国は、全国の国保会計に、支援金を3400億円交付する。本町へは約1000万円が見込まれる。支援金を国保税引き下げに充当する考えはないか。

末松長寿福祉課長　本町の医療費は、県下で高いにもかかわらず、国保税は平成20年度から据え置いており、低い税率となっている。今後は引き上げざるを得ない状況になっている。

介護保険料の負担軽減を

問　町独自で介護保険料の負担軽減した金額を、町が介護保険広域連合に拠出金として納付することで、介護保険料の引き下げは可能ではないか。そのようなことができないとするならば、法的根拠は。

末松長寿福祉課長　根拠は厚生労働省老健局の介護保険計画課から出された資料の中にある。

第2子からの保育料の無料化は

問　本町が第2子からの保育料を無料化した場合に、財源は2150万円必要。国が示す保育料の基準単価をさらに引き下げるか、いずれかの方法で保育料の負担軽減に取り組む考えはないか。

垂水子ども未来課長　次年度に向け、保育料の引き下げについて検討したい。

旧ビール館の解体について

問　本町は旧ビール館を解体させ、更地にして、町有地の返還を求める協議を行っていると思う。その進捗状況について、聞きたい。

福田企画情報課長　旧ビール館については売買契約により所有権が移動しているが、登記されていない。また、旧ビール館の代表者が不在で、登記などに係る手続きを進めることができないため、早急に代表者を決めるよう、依頼している。所有権のある企業は町に旧ビール館を無償譲渡したい意向があることから、施設を解体するかリノベーションなどにより再利用するか検討している。